

平成 30 年 1 月 30 日

## もっと現場を知る！職員短期派遣研修報告書

所属名	砂防課	氏名	石富仁志
派遣先 団体名	NPO法人あしぶえ		
① 研修の日時 平成 29 年 6 月 21 日、7 月 2 日、8 月 3 日、11 月 2 日、11 月 3 日、11 月 5 日			
② 研修の内容(できるだけ詳しく記載してください。) (1)研修内容の打ち合わせ(6月21日) あしぶえの活動のうち、どれを今回研修のメインとするか相談し、演劇祭のフェスティバルクルー(運営スタッフ)として関わらせてもらうこととなった (2)しいの実シアター公演(7月2日) しいの実シアターでの「セロ弾きのゴーシュ」公演のボランティアスタッフとして参加 業務内容は主に駐車場の誘導係 (3)「松江・森の演劇祭」フェスティバルクルー(8月3日、11月2日、3日、5日) 11月3～5日の三日間、しいの実シアター及びその周辺で開催された演劇祭のフェスティバルクルーとして参加 業務内容は、インフォメーションにおいてのお客様からのお問い合わせへの対応や、会場内の案内、誘導等			
③ 研修の感想 (研修の全般的な感想、各団体での活動の意義や協働に対する感想(研修前後における意識の変化)等について記入してください。) 今回の研修を通じて最も興味深かった点は、地元である八雲の住民の方達の、劇団や公演への深い関わりである。通常の公演や演劇祭のフェスティバルクルーとして運営に関わっていらっしゃる方の多くは地元の方であったことから、劇団が地元深く根ざしていると感じ取ることができた。もちろんそれは容易にできるものではなく、長い時間と交流を通じて醸成されたものであるとも感じられた。 また、演劇祭の直前、多くの住民の方が会場周辺の草刈りをしていらっしゃるの印象的だった。 演劇祭の期間中強く感じたこととして、劇団(演者)、フェスティバルクルー、マルシェやレストランに携わった方々、お客さんを含めた「一体感」を上げることが出来ると思う。それぞれの立場や役割は異なっているが、「演劇祭を成功させたい、とことん楽しみたい」という共通の目標を通じて生まれてくるその「一体感」により、関係者皆に感動を与え、また関わりたい、見に来たい、と思わせる演劇祭になったのではないかと考える。			
④ その他特記事項 (※今後の研修実施に当たっての改善点、留意しておくべきことなどがあれば記入してください。)			

(注1)研修日時・内容等がわかる資料があれば、添付してください。

(注2)報告書は、平成 30 年 1 月 31 日までに人事課あてにメールで提出してください。